

学 校 便 り

滑川市立西部小学校 H28. 12. 21

学校教育目標



「三つの花」を咲かせる西部っ子

にこにこ花 楽しくあいさつができる子
ほかほか花 「あったか言葉」をつかう子
きらりん花 キラキラと自分らしく輝く子

地域の子供は地域で育てるとは言うけれど

12月に入って間もない日に、5年生が米作り体験の世話をさせていただいた下島の好田さんをお招きして「お米パーティー」を開きました。収穫したお米を炊いておにぎりをつくり、味噌汁もふるまって、収穫の喜びや好田さんに対する感謝の気持ちを表わそうと子供たちが計画したものです。

その折に、私の方から「なぜ好田さんは、わざわざ田植えや稲刈りのほんの一部を子供たちのために残して稲刈りを体験させてくださっているのだろうか？かえって手間のかかることなのに、何を考えてほしくてこの体験を続けてくださっているのだろうか？」と問いかけました。ことさらその場で答えを言いませんでしたが、米作り体験のなかで子供たちなりに好田さんの思いをしっかりと感じとってくれていたに違いありません。

好田さんにお聞きすると、もう10年以上も5年生を対象に米作りのお世話を続けてこられたということです。何らかの組織や団体でこの事業を受けておられるわけではありません。あくまで個人の思い入れで続けてこられたのです。たただ感謝し、頭の下がる思いです。依頼されて1、2度受けることはあっても、何年も続くことは希なケースです。しかもボランティアで見返りもありません。これはあくまで私の勝手な想像でしか過ぎませんが、好田さんは、子供たちに米作りに興味をもってほしいとか、将来農業に従事してほしいとかいうような考えではなく、「少しでも社会の勉強に役立ててほしい」「本物の米作りに触れること、体験することが子供たちの財産になる」という思いで実施して下さっているのだと思います。

最近「地域の子供は地域で育てる」という言葉をよく耳にします。本校でも見守り隊や読み聞かせボランティアの方等、地域ぐるみで子供を見守り、育てていただいております。その期待や熱い思いに応えるためにも、学校は（やがて地域を離れることがあっても）郷土に愛着や誇り



をもち、地域に自分の力を役立てようとする子供を育て、いただくばかりの地域にお返しをしていかなければならないと思っています。

私ももう2年で退職を迎えます。自分の住む地域の子供のために具体的に何ができるのか、そろそろ真剣に考えてもみなければなりませんと思っています。

(校長 西元正史)

専門家に学ぶ

12月に入り、各分野の専門家の方を講師に迎えて特別授業を行いました。4年生はマリンバ奏者の塚越慎子さんとピアノ伴奏の志村和音さんからマリンバの素敵な音色を聴かせていただきました。新聞紙を使い曲に合わせて音を出し、リズムの楽しさを一緒に学ぶことができました。また、昨年と同じく富山県書写書道教育研究会会長の稲垣宗之先生をお招きして、5、6年生を対象に書き初めの指導をしていただきました。各学級2時間の限られた時間ですが、子供たちが家庭でも取り組めるような指導方法を教えていただきました。1月には1、2年生がキーボードやマウスの基本操作、学習ソフトの使い方等の情報教育の授業を受ける予定です。このように専門家の方々からより高い技能や多くの知識を分かりやすく学ぶことで、子供たちの興味や関心も高まることを期待しています。



挨拶アンケートの結果より

子供たちの「おはよう」の挨拶について、家庭での様子を調査したアンケートにご協力いただきありがとうございました。

子供の挨拶については、できると自己評価した子供、保護者が共に80%を超えていました。しかし、教員からの評価は32%と低く大きな差がありました。挨拶の上手な子供は、学校で出会う全ての教員に挨拶をしますが、多くの子供は校長先生や担任の先生等、一部の先生にだけ挨拶をしているようです。校内では教員の方から「おはようございます」と声をかけ、あいさつすることが当たり前前の環境を作ろうとしています。ご家庭でも同じように環境づくりのために、大人から積極的に声をかけているとのコメントがとても多かったです。しかし、地域の方々からは挨拶を返してくれないとの声も聞かれます。学校や地域でも挨拶ができる子供が増えるよう、3学期も挨拶への取組を続けていきますのでご協力をお願いします。

保護者の方からお寄せ いただいたコメント

○うれしいコメント
△残念な子供の姿
・親の願い

- 親が先に「おはよう」と声をかけるようにしている。
- 子供が「おはよう」と返すまで声をかけている。
- 私の家では朝、顔を合わせたら必ず「おはよう」を言って挨拶するきまりになっている。
- 近所の方には自分から声をかけられないようなので、親が積極的に挨拶をするところを見せるようにしている。
- △集団登校の見守りに行った際、挨拶しても軽く会釈してくれた子供が数人いただけで、挨拶を返してくれた子供は一人もいなかった。
- △見守り隊をして、小学生が挨拶を全くしていないことに驚いた。
- △家では自然に挨拶をしているが、集合場所では他の人が誰も挨拶していないので、自分から進んではしていないようだ。
- ・親への挨拶は毎回言ってくれる。近所の人や学校、習い事先等でもはっきりと元気よく挨拶してほしい。
- ・挨拶の基本は家庭から。「おはよう」「おやすみ」だけでなく「いってきます」「ただいま」等、声かけを当たり前に行っている。

